

【奨励賞】 第10回 日本水大賞

大和川水質改善応援定期預金「大和川定期預金」の取扱い及び大和川の水質改善への取組み

大和信用金庫

全国の一級河川の中でもワースト1の汚名を着せられている大和川の水質改善を願い、水質汚濁の数値「BOD値」（生物化学的酸素要求量）が前年比改善されていれば金利を上乗せするという「大和川定期預金」を企画し、推進した。

第2回 やましん大和川水質改善応援定期預金
大和川定期預金
7月は「川の水質」を少しだけ大切に、水質改善の数値によって、定期預金の金利を上乗せします。
水質改善の数値は、BOD値が4.0mg/l以下に改善した場合は、前年比に1.0%の上乗せです。
BOD値が4.3mg/l以下に改善した場合は、前年比に0.5%の上乗せです。
BOD値が4.6mg/l以下に改善した場合は、前年比に0.3%の上乗せです。
※BOD値は、生活排水の削減により、河川の水質が改善されることを目指しています。
※BOD値は、生活排水の削減により、河川の水質が改善されることを目指しています。
※BOD値は、生活排水の削減により、河川の水質が改善されることを目指しています。
大和信用金庫

大和川定期貯金

同時に「大和川生活排水対策社会実験（特定日に向けて各家庭での生活排水を抑えるように呼び掛け、その前後での水質を測定し、効果を確認する実験）」にも参加し、各家庭における生活排水の軽減を呼び掛けるとともに、河川の清掃活動等にも汗を流している。地域住民一人ひとりの意識付けが大和川の水質良化に繋がり、お客さまへの利益還元も実現した。

1. はじめに

当金庫は奈良盆地の東南部に位置する桜井市に本店を有し、県下一円に20店舗を擁している。昭和23年の戦後混乱期に桜井商工業界の有志により設



大和川生活排水対策社会実験の呼び掛け



生活排水社会実験

立され、平成20年には創立60周年を迎えることとなった。

当金庫の本店所在地である桜井市は、大和民族が記録を残し始めたころの古代大和王権の成立した土地であり、古代統一国家の中心舞台ともなった日本史の第1ページを飾る日本文化の発祥の地である。

また、邪馬台国の女王卑弥呼の墓とも言われる「箸墓古墳」や「高松塚古墳」、大化の改新の舞台となった「談山神社」も近くにあるという歴史にあふれた土地柄である。

桜井市の地場産業としては吉野杉・桧をブランドとした木材業を始め、三輪そうめん等の産業が有名である。

2. 大和川について

奈良県には奈良盆地のほぼ全域を流域とし、大阪平野を西に横切って大阪湾に注ぐ全長68kmの一級河川である大和川が流れている。

「大和は 国のまほろば たたなづく 青かき山こもれる 大和し 美し」(ヤマトタケルノミコト望郷の歌『古事記』より)の歌碑が、桜井市の三輪山麓にある池の堤防に建っている。この池の堤に立って見渡すと、山々に囲まれた奈良盆地の眺めが一望でき、その間を大和川が流れている。その昔、大和川は古代中国との貿易における重要な水路となっており、平成20年は、日本書紀の記述によると、推古16年(608年)遣隋使小野妹子を送って来朝した裴世清(はいせいせい)ら一行



大和川風景1



大和川風景2



大和川風景3

が、難波津(現在の大阪)から船で大和川をさかのぼり、初瀬川から三輪山麓の海石榴市(つばいち)に上陸、飛鳥の宮に至ってから1400年となる記念すべき年でもある。

このように万葉の昔から人々に親しまれ、昭和30年代までは清流に親しみ川遊びをする風景がよく見られた美しい川であったが、現在の大和川は全国の一級河川の中でも、水質の悪さでワーストクラスを争うという汚れた河川となっている。これは、大和川上流に山間部が少ないという地形的な特徴と、流域の年間降水量が全国平均に比べて少ないことが挙げられているが、最大の要因は各家庭からの生活排水である。

年	順位	河川名(水系)	都道府県名	BOD年平均値(mg/L)
平成10年	1	大和川(大和川水系)	奈良・大阪	5.8
	2	鶴見川(鶴見川水系)	神奈川	5.8
	3	綾瀬川(利根川水系)	埼玉・東京	5.5
	4	中川(利根川水系)	埼玉・東京	3.8
	5	猪名川(淀川水系)	兵庫・大阪	2.8
平成11年	1	綾瀬川(利根川水系)	埼玉・東京	6.4
	2	大和川(大和川水系)	奈良・大阪	7.2
	3	鶴見川(鶴見川水系)	神奈川	5.4
	4	中川(利根川水系)	埼玉・東京	5.3
	5	牛瀬川(菊川水系)	静岡	3
平成12年	1	大和川(大和川水系)	奈良・大阪	6.7
	2	綾瀬川(利根川水系)	埼玉・東京	6.5
	3	鶴見川(鶴見川水系)	神奈川	5.0
	4	中川(利根川水系)	埼玉・東京	4.7
	5	猪名川(淀川水系)	兵庫・大阪	3.0
平成13年	1	綾瀬川(利根川水系)	埼玉・東京	6.4
	2	大和川(大和川水系)	奈良・大阪	5.8
	3	鶴見川(鶴見川水系)	神奈川	5.1
	4	中川(利根川水系)	埼玉・東京	4.8
	5	猪名川(淀川水系)	兵庫・大阪	3.4
平成14年	1	鶴見川(鶴見川水系)	神奈川	5.5
	2	大和川(大和川水系)	奈良・大阪	5.5
	3	綾瀬川(利根川水系)	埼玉・東京	5.4
	4	猪名川(淀川水系)	兵庫・大阪	4.1
	5	中川(利根川水系)	埼玉・東京	3.9
平成15年	1	大和川(大和川水系)	奈良・大阪	5.3
	2	綾瀬川(利根川水系)	埼玉・東京	4.9
	3	鶴見川(鶴見川水系)	神奈川	4.3
	4	中川(利根川水系)	埼玉・東京	3.8
	5	牛瀬川(菊川水系)	静岡	3.0
平成16年	1	綾瀬川(利根川水系)	埼玉・東京	5.7
	2	中川(利根川水系)	埼玉・東京	4.8
	3	大和川(大和川水系)	奈良・大阪	4.8
	4	鶴見川(鶴見川水系)	神奈川	4.5
	5	牛瀬川(菊川水系)	静岡	2.7
平成17年	1	大和川(大和川水系)	奈良・大阪	6.4
	2	鶴見川(鶴見川水系)	神奈川	4.7
	3	綾瀬川(利根川水系)	埼玉・東京	4.7
	4	中川(利根川水系)	埼玉・東京	3.7
	5	猪名川(淀川水系)	兵庫・大阪	3.5
平成18年	1	大和川(大和川水系)	奈良・大阪	4.7
	2	綾瀬川(利根川水系)	埼玉・東京	4.6
	3	鶴見川(鶴見川水系)	神奈川	4.3
	4	中川(利根川水系)	埼玉・東京	4.2
	5	猪名川(淀川水系)	兵庫・大阪	3.4

BOD値による河川の水質状況(水質下位5河川)

水質汚濁要因の8割が一般家庭からの生活排水によるものであるといわれていることについては、大和川の流域人口が終戦後70万人水準であったのが、戦後の高度経済成長における工場進出、私鉄沿線開発による住宅の急増を経て、現在215万人となっていることと、流域の人口が増加する一方で、大和川流域の下水道の普及率は73%にとどまっており、特に上流である奈良県の普及率は69%(平

成18年度末)であることも、大和川の水質悪化の一つの要因といえる。

また、下流である大阪府より上流の奈良県の方が水質が悪いというのが実情であり、上流に位置する奈良県民の責任として、水質改善を意識しない訳にはいかない。

実際、流域の方々に大和川の印象を聞くと、非常に汚く、臭い、これほど汚れた川がきれいになるわけがない、との否定的な声をよく聞く。しかし、原因の8割を占める生活排水を抑えれば、水質は確実に改善するのである。従って、水質向上の鍵は流域住民が握っているといっても過言ではない。



「奈良県暮らしと環境フェスティバル」にパネラーとして出席

3. 当金庫と大和川の関わり

当金庫では、平成16年12月より「より一層地元から信頼され、必要とされる信用金庫を目指した積極的なCSR活動の検討を行う」ことを目的に「CSR検討委員会」を設置し、これまで数多くの活動を行ってきた。

当金庫のCSR活動のテーマについては、「『Next Generation ～未来へ～』次世代のために、私たちは歴史と環境を大切にします。」としているが、これには、古都奈良を事業地域とする当金庫が「持続的発展が可能な地域社会づくり」に貢献するという社会的責任を果たすために、地域の歴史と環境と子供たちを大切にすることを活動の柱としたいとの思いがある。

委員会で議論を進める中で、従来から行ってきた地域の清掃活動も大事ではあるが、やはり金融機関はその本業である預金や融資の商品でもってCSRを果たしていくべきではないかとの結論に至り、テーマでもある歴史と環境に結びつけた形で

の商品企画を模索していた。

そんな折、奈良県庁の環境政策課担当者との話の中で、奈良県では環境問題として何が一番困っているのかと尋ねたところ、“実は大和川が汚くて困っている。”との話を聞き、それならばこの商品を思いついた次第である。

その後、平成18年2月に「大和川生活排水対策社会実験」に参加・協力し、その成果等を発表する奈良県主催の「暮らしと環境フェスティバル」にもパネラーとして出席を訴えとともに、各家庭での水質改善への意識付けの必要性と、金融機関としても側面支援としての水質改善応援の定期預金である「大和川定期預金」の企画案を発表した。



環境フェア

4. 具体的な商品内容

「大和川定期預金」は、水質の悪さでワーストワンとなった汚れた河川“大和川”の水質が、前年対比改善されていれば、預入頂いた定期預金の金利に上乘せ金利を付与するというシンプルなものであり、具体的には国土交通省の発表するBOD値という水質を示す指標の前年対比の改善度合いに応じて、定期預金の金利を上乘せするというものである。

商品のネーミングについても、大和川は当金庫名にも通ずるということから、難なく決まった。

金利設定については、大和川における平成17年の年平均のBOD値である6.4mg/ℓ(全国ワーストワン)を基準とし、平成18年の年平均BOD値が大幅に改善(3.4mg/ℓ以下)となった場合は、預入時の店頭表示金利に対して、1.0%の金利上乘せを行う。BOD値が環境基準である5.0mg/ℓ以下とな

った場合は、預入時の店頭表示金利に対して、0.5%の金利上乗せを行い、BOD値が小幅でも改善(6.3mg/l以下)となった場合は、預入時の店頭表示金利に対して、0.2%の金利上乗せを行うという設定とした。

この定期預金の推進に際しては、大和川の水質の悪さの要因の8割が生活排水と言われていることを強調し、同商品の趣旨を説明した上で、粗品については地元企業が作る“水切りネット”を配り、各家庭での生活排水削減を呼び掛けた。(例えば、①食事は食べる分量だけ作り、残らないようにする。②食器やフライパンなどの汚れは拭き取ってから洗う。③食べ残しや残りクズは流さず三角コーナーかゴミ箱へ入れる。等)

各家庭における生活排水削減の意識付け及び行動の結果が、大和川の水質良化に繋がることを目指すものであり、その取組みを当金庫が預金金利の上乗せ商品にて支援することによって、結果的に大和川の水質が改善され、ひいてはお客さまも金利上乗せのメリットを享受していただけることとなり、これは地域への利益還元ともなる。

5. 「大和川定期預金」の反響について

発売当初から、新聞各紙を始めテレビやラジオ等の各マスコミでも採り上げられ、各方面から評価を頂いた。県内のお客さまのみならず、大阪府や和歌山県、さらには霞ヶ浦のある茨城県の自治体からも問い合わせをいただいた。

これら大和川の水質改善に向けた当金庫の取組みが評価され、平成19年2月にはフジサンケイグループ主催の「第16回地球環境大賞《フジサンケイビジネスアイ賞》」を受賞し、同年3月には三重県主催の第5回「日本環境経営大賞《環境プロジェクト賞》」を、同年6月には「平成18年度関西エコオフィス奨励賞」を、同年12月には第5回「企業フィランソロピー大賞《地域環境賞》」を、そして平成20年3月には今回の第10回「日本水大賞《奨励賞》」をそれぞれ受賞した。

それぞれの賞では名立たる大手企業が名を連ねており、その中で信用金庫は地域でこんなユニークな取組みをやっているということを知っていただけたことは喜ばしいことである。

さらに平成20年5月には、信用金庫業界における

顕彰である「信用金庫社会貢献賞《特別賞》」の受賞も決まり、業界内での評価もいただいたところである。



20.4.18 産経新聞

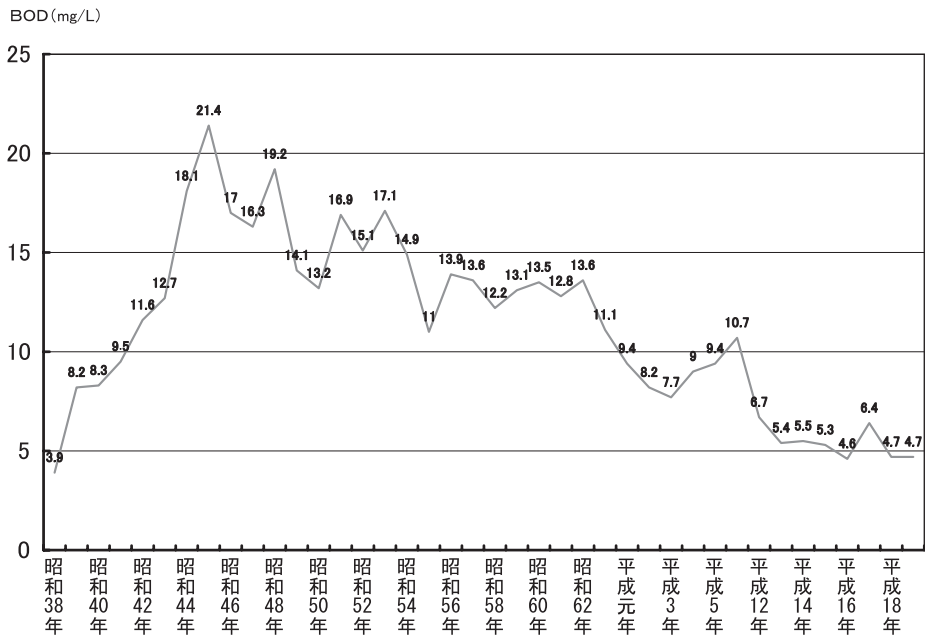
これらの評価については、①地域金融機関として、金融と環境を結びつけたこと、②河川の水質数値と預金の金利をリンクさせたユニークさと分かりやすさ、③生活排水抑制の呼び掛けや、河川の清掃活動、「大和川基金」の組成等の地域と一体となった活動の実践、にあるのではないかと分析している。

6. 成果について

平成18年の第1回大和川定期預金の実績については、地域のみなさまの共感を頂き、予定額50億円を上回る59億円の預入となった。

そして大和川の平成18年の水質(年平均BOD値)については、地域のみなさまの意識もあってか、17年の6.4mg/lよりも大幅な改善を示し、環境基準を下回る4.7mg/lとなり、大和川定期預金の金利は年0.5%の上乗せを行うことができ、お客さまにも喜んでいただくこととなった。結果的に、当金庫の大和川水質改善への取組みが少なからず水質改善に繋がったのではないかと、その意義を感じている。

平成19年の第2回大和川定期預金については、環境各賞の受賞もあり、予定額70億円に対して80億



大和川水質の経年変動グラフ

円の預入となったが、残念ながら水質については18年と同じ4.7mg/Lとなり、改善は認められず、結果として預金金利の上乗せが実現しなかった。(ただし、預入総額の0.01%に相当する金額を後述の「大和川基金」に組入れた。)

7. その他の取組み

「大和川生活排水対策社会実験」へ参加・協力し、地域のご家庭においても生活排水を減らしていただくよう呼び掛けるとともに、実験前後の水質調査によってその成果を確認した。加えて、職員自らも「大和川クリーンキャンペーン」という地域の清掃活動に参加し、地域の皆さんに交じって多くの職員が汗を流している。

また、行政とのネットワークから、国土交通省、奈良県、大阪府等の各自治体主催による「大和川フォーラム」や「大和川の集い」、奈良県主催の

「環境フェア」において、当金庫の大和川水質改善への取り組みを、展示ブース設置により紹介した。

第2回の大和川定期預金では、お預け頂いた預金総額の0.01%に相当する金額及び金庫役職員からの自由意志による出捐により総額112万円の「大和川基金」を創設した。

この基金については大和川の再生・水環境の改善に向けた取組みに対して、資金を拠出することとしており、具体的には、特定非営利活動法人奈良NPOセンターと連携し、大和川の水環境改善に向けた様々な取組みに対して、資金の拠出を行うこととしている。これにより、NPOを中心とした地域の方々との協働が実現し、より大きな活動の輪が広がっていくものと期待している。第1回目の活動として、「大和川源流体験ツアー」を実施し、特に子供たちに大和川の源流を実感してもらい、環境意識を芽生えさせるという意味のあるイベント



クリーンキャンペーン1



クリーンキャンペーン2

が実現できた。今後も、基金の活用により子どもたちとのふれあいイベント、河川浄化への啓発活動等を考えている。

また、JICA（国際協力機構）の外国人留学生セミナーにおいて、（信用金庫の地域貢献活動の意義に加え、金融と地球環境保護を結びつけた）当金庫の「大和川定期預金」に関連した取組みについて紹介した。自然を愛する心は万国共通であると言うことを改めて認識できた。

さらに「大和川市民ネットワーク」という、民と官、奈良（上流）と大阪（下流）、企業や個人、NPOに大学など、様々な立場やフィールドで活動している人達を結びつける市民ネットワークづくりにも関わり、現在、CSR委員会副委員長が副代表という立場でその活動を進めているところである。

8. 今後の活動について

大和川のさらなる水質改善を願い、今後も継続的に「大和川定期預金」を発売していく予定であり、今年度も7月から9月にかけて第3回となる「大和川定期預金」を推進する。

今期は当金庫の創立60周年の記念すべき年であり、大和川に纏わる数々の催しを企画している。昨年に引続く「大和川源流体験ツアー」を始め、大和川ハイキング、大和川フォーラムの開催や、大和川作品コンクールなど、当金庫は、今後も引き続き大和川の水環境の改善に向けて様々な取組みを進めていく所存である。

9. ホタルの舞う川づくりを目指して

大和川の源流は、いろいろな説があり明確ではないが、筆者である私は先日地図を頼りに一般的に言



大和川源流体験ツアー1

われている源流地点（地図上で一番距離の長い地点）から、地図にもないさらに奥の源流を探し求めた。そこは岩場から滾々と流れ出る清流であり、これがこれから68kmの距離を流れ大阪湾まで注ぎ込むのかと考えたとき、感慨深いものがあった。

その昔は、万葉人が交易の水路として利用したり、奈良盆地の稲作における重要な河川ともなり、子供たちが泳ぎ、魚を獲り、遊び親しんだ河川である。

その川が今や水質ワーストワンの汚れた川として誰にも見向かれることなく、あれだけ汚い川が昔のようにきれいになることは不可能だと思われる。

川は人を映し出す鏡のような存在であり、川を活かすのは住民の意識次第である。

地域住民が意識を変え、何とか大和川の水質良化のために一人でも多くの方が行動を起こせば、近い将来、奇跡が起こるかもしれないと信じている。実際に、ここ数年来では清流にしか生息しないと言われているアユの遡上も確認されたり、孵化間近のアユの卵や仔アユの流下も確認されている。

最後に、当金庫理事長の柳田が、「平成18年度関西エコオフィス奨励賞」を受賞した時のテレビ局のインタビューに対して答えた言葉を紹介する。「『大和は国のまほろば』と詠われているように、日本のふるさとです。国のまほろばである大和の国の大和川がきれいになるということは、日本がきれいになるということではないかと思います。」

この想いが地域に拡がれば、と願っている。

大和信用金庫 総合企画部次長
CSR委員会副委員長 新 元 秀



大和川源流体験ツアー2